

平成30年度 事業計画書

(自平成30年4月1日～至平成31年3月31日)

公益財団法人 全国学校農場協会

本年度基本方針

公益財団法人全国学校農場協会は、定款に定めた農業教育の発展と振興を図ることを目的にこれまで事業を推進してきた。その基軸は農業の持つ教育力であり、世代を越えて農業教育の力を広く人々に発信し、日本農業の発展に寄与することを大きな目標としている。また近年、国民の農業への関心の高まりとともに、ふるさと、地域、人、コミュニティーが見直され、農的な社会形成の機運が高まっており、農業を中心とした人間と自然との関わり合いが、今後益々大切なものとなってくると考えている。本協会は、これらのことを踏まえ将来の日本農業を教育的視点からリードし豊かな社会形成に寄与して行きたいと考えている。

本年度は、事業の精選、効率化を図り、更に内容を充実して広く国民に農業・農業教育の重要性と必要性を伝える事業を推進するとともに発展著しい農業技術の研修・普及を図る事業を合わせて推進して行きたい。

事業計画

定款に定めた事業方針に基づき、本年度、当公益財団法人は以下の5つの事業を支柱に据えて事業活動を進める。

- 1、研究発表及び教育行政・農政・学術・学際的講演等による農業教育を推進する事業
- 2、農業教育・環境及び健康教育に関するシンポジウムの開催（共催）をする事業
- 3、学術及び科学技術の推進を目的とする事業
- 4、図書・機関紙等の刊行事業
- 5、地域文化（農村文化・芸術・文芸）振興を推進する事業

- 1、研究発表及び教育行政・農政・学術・学際的講演等による農業教育を推進する事業
 - (1) 広く国民に農業教育の推進と農業の果たす役割の理解の深化を図るために全国高等学校農場協会と共催する全国大会・農業教育研究協議会・支部大会で研究発表並びに講演を行う。また一般の方の参加を促すため公開とする。本年度は下記の通りである。
 - ・全国大会並びに教育研究協議会（東京開催）
 - ・支部大会（釧路市・福島市・千葉市・白山市・岐阜市・岡山市・松山市・久留米市）
 - (2) 農業教育の普及・振興に貢献された者に対する農業教育功労者表彰の実施
- 2、農業教育・環境及び健康教育に関するシンポジウムの（共催）をする事業
 - (1) 広く地域の人々と共に人と自然との共生をテーマに農業教育・環境及び健康教育を推進するために28年度まで各種のシンポジウム及びフォーラムを実施してきたが、

公益財団法人へ移行発足してから4年が経過した本年度は、これまで実施してきた各事業の検証と精選、事業内容・運営方法等の抜本的な見直しを行った。その結果、平成30年度については、下記のシンポジウムを実施することとなった。

[平成30年度]

- ・農業女子フォーラム（東北地区：開催県、開催日時等は検討中）
- ・公開シンポジウム（千葉県柏市、開催日時等は詳細は検討中）

尚、継続検討中のシンポジウムについても、他団体との連携の在り方等についての方
向性が決定し次第、事業の概要について結論を得たいと考えている。

3、学術及び科学技術の推進を目的とする事業

(1) 農業実験実習講習・教員免許状更新講習

国民に健康で安心・安全な食料を供給する農業教育を推進・発展させるために、最新の学術・技術の習得、研修・研究をを追求すると共に、その技術を学校教育・農業実践の現場で発揮し、次代を担う若者の教育に生かすことを目的としている。なお、この講習は、夏季休業中の5日間を充て、全て出席すれば修了証が授与される。又、教員免許状更新講習（選択領域）の履修についても、この期間の講習を受けることによつて履修が（選択領域18時間分）認められる。対象は、農業科・家庭科・技術科・理科の小中学校・高校の教員、および栄養教諭である。

（文部科学省教員免許状更新講習の認定・平成30年2月16日）

この事業は、当公益財団が全国の大学等に依頼して行う講習である。本年度の開催は下記のとおりである。

- ・北海道地区：農業と環境 帯広畜産大学（北海道帯広市）
 - ・東北地区：食品化学 郡山女子大学（福島県郡山市）
 - ・関東地区：農業と環境 宇都宮大学（栃木県宇都宮市）
 - ・北信越地区：農業と環境 石川県立大学（石川県野々市市）
 - ・近東地区：農業と環境 大阪府立大学（大阪府堺市）
 - ・四国地区：農業と環境 高知大学（高知県南国市）
 - ・九州地区：農業と環境 鹿児島大学（鹿児島県鹿児島市）
- 食品化学

(2) 免許法認定講習

全国の農業関係高校に勤務する実習助手を対象とした免許法認定講習を東京農業大学及び北海道酪農学園大学で実施する。この講習は、本協会が東京農業大学及び北海道酪農学園大学に開講の協力を要請し、文部科学省の委託事業として実施するものである。（開講は東京農大8月下旬、北海道酪農学園大7月下旬の予定）

(3) 調査研究

当公益財団では、農業教育に関する調査研究を継続的に実施する。本年度は下記の4分野での調査研究を行う。研究成果は農業教育研究協議会及び研究集録で発表する。

- 1) 森林・林業（環境系部会）
- 2) 畜産（生物生産系部会）
- 3) 流通・経営系部会
- 4) ヒューマンサービス系部会

4、図書・機関紙等の刊行事業

(1) 研究集録の発刊

全国の農業関係高校等を対象とした調査研究の成果、講演要旨、シンポジウムの内容等収録した研究集録を事業年度末に発刊し農業教育普及の一助とする。

(2) 公益財団法人 全国学校農場協会新聞の発行

全国における農業教育の情報を収集し、広く農業教育に関わる方々や関係機関等に情報を提供する。発刊は年4回（1号～4号）とする。

(3) ホームページの充実

農業教育に関する情報や成果を、ネットを通して広く普及するためホームページの活用、充実を図る。

(4) 「農業学習ノート」の研究開発及び実習手帳の発刊

科目「農業と環境」で扱う「トウモロコシ」「ダイコン」などの作目に対応した「農業学習ノート」を作成発行し実習用教材の研究開発をすすめる。又「実習手帳」を発刊し、実習教育の向上と充実を図る。

5、地域文化（農村文化・芸術・文芸）振興を推進する事業

(1) 第10回農業関係高等学校エッセイコンテストの実施

全国の農業関係高校で学ぶ約9万人の生徒を対象とした第10回エッセイコンテストを実施する。当事業は日本農民文学会との共催事業であり優秀作品は文学会雑誌及び全国・地方新聞、当公益財団のホームページにて公開する。

(2) 第4回農業関係高等学校（生徒・職員対象）農業・農村写真コンテストの実施

第4回農業関係高等学校 農業・農村写真コンテストを棚田学会との共催で実施する。このコンテストは、日本の農村風景の素晴らしさや価値を多くの人に知ってもらうこと、また、そこに生活する人々が、その価値を再認識し、地域の素晴らしさに自信を持ってもらうことを目的としている。テーマとして四季を通しての「わが農村の風景」「自慢したい、わが里山の美しい風景」「棚田の風景」など農業・農村に関する

るものを設定している。優秀作品は棚田学会総会、協会ホームページで発表する。

以上の5事業は、広く国民に農業・農業教育の理解と普及・発展を図る上では極めて重要である。現在検討中のものも含め、この事業により全国での農業教育の推進がさらに進み、「国の基盤としての農業」また「農（里山）のある生活の素晴らしさ」をより多くの人々に伝えることが出来るよう努力するものである。